

のうがukai

# 「なごやか農楽会」だより 72号

2022.11月(冬)号



援農の風景

- ◇ なごやか農楽会からのお知らせ
- ◇ 援農作業予定 (12~2月)
- ◇ 援農作業実績 (8~10月)
- ◇ 農家さん紹介/あいちの伝統野菜など

## なごやか農楽会からのお知らせ

### 農業センターがリニューアル整備されます

名古屋市農業センターは、2023年4月からリニューアル整備が始まります。2023年3月末頃から、全面休園します(2023年9月までを予定)。このため来年度の農業ボランティア育成講座の募集はありません。令和6年度から再開予定で、再来年度は農楽会の新入会員はありません。農業センター休園に伴い来年度の総会の場所は変更となります。

なごやか農楽会だよりは、名古屋市農業センターのご協力により発行しております。



# なごやか農楽会からのお知らせ



## 評議会報告

報告・審議・検討事項の概要

8月度会議（休み）

9月度会議（9月10日開催）

（1）各支部・援農塾 活動実績の報告

（2）11月開催予定だった研修はコロナ蔓延により中止したが、評議会メンバーで11月末か12月第2土曜日に援農塾現地を訪れ見学をしたい。

→ 12月第2土曜日（12月10日）に実施することで、援農塾と調整して決定する。

（3）ボランティア育成講座受講生向け実技体験研修について、各支部長と調整した結果、昨年に引き続き「天空のアグリパーク」で実施する。10月28・30日、11月4日実施。15名参加の予定。（以前の受講生より「農業ボランティア育成講座の中で、援農作業を一度経験したかった、経験させて欲しかった」との要望があり昨年度実施。成果があったので今年度も実施）

（4）農業センターまつり出展について

出展場所：農業センターからの出展依頼場所とする。

「農業指導館の軒先（屋根の下）のスペース、チャレンジファーマーカレッジ卒業生の農産物直売ブースの隣。軒下に2m×2mのテントを張り、テントの骨組みにパネルを吊るす。出展内容：農楽会案内ちらし、パネル展示。援農塾で栽培の野菜の出展を検討。

（5）農楽会概要等説明会（11月12日実施）について。ボランティア育成講座2期生に農楽会・支部紹介を行う。

（6）農楽会だより 今年度11月分からは以前に戻し、毎年11月は支部原稿を掲載することとし、今年度はもりやま支部が原稿作成することとする。

（7）その他

HPについて HPに何を載せるのが良いか、評議会で検討する。

みどり支部援農先について

榊原幹男様 今年度試行的に援農実施、来年度登録  
寺島留吉様 援農不要、来年度登録削除

10月度会議（10月8日開催）

（1）各支部・援農塾 活動実績の報告

（2）援農塾の援農・援農畑見学について 内容は、援農作業の見学、畑の管理活動全般の説明、援農塾の活動についての説明。

（3）農業センターまつりについて

出展内容は、なごやか農楽会案内ちらし配り、パネル展示（2枚）とする。援農塾からの野菜出荷は難しいため、野菜販売は行わない。

（4）農楽会だより農家訪問・紹介（原稿作成等）について

取材依頼先援農農家は、てんぱく支部：森山茂雄 みどり支部：榊原幹男 もりやま支部：内木農園 港・中川支部：立松農園 とする。11月に取材をおこなう予定。

（5）農業センター会議室の利用について、今年度は本館利用可。来年度は本館ならびに指導館の利用は不可。ボランティア育成講座は令和5年度開催しない。令和6年度からは開催する。（来年度評議会・総会の開催場所の検討必要）。

（6）農業センターより2月に作る援農先名簿・活動資料集の登録について農家の確認があった。

## もりやま支部 援農のその先に、援農恵みで収穫祭

援農先の農家さんから御礼としていただく野菜やくだもの。そんな時いつも話題に上るのは「どんな風に食べたら美味しい？どんな料理が合う？」ということ。農家さん自身も新しい野菜を作ってみたものの食べ方がわからず、消費者にもうまく勧められないため、なかなか売れないこともあるのだとか。そんな農家さんの悩みを少しでも解決するため、もりやま支部では定期的に料理研究会を開催しています。オクラ、コリアンダー、ツルムラサキ、ロロンカボチャ、摘果みかん、米粉、バナナの葉まで、ありとあらゆる食材に挑戦！世界の料理を参考にみんなで知恵を出し合っ、新しい料理に取り組んでいます。年末には恒例となった「援農先の恵みで収穫祭」を開催予定！

農家さんとともに新しい料理を分かち合うことで、これからの野菜づくりのお役に立てればと思っています。料理研究会や収穫祭はもりやま支部以外の方でも大歓迎！ご興味のある方はぜひご参加ください。



2023年4月から始まるリニューアル整備に向けた準備や工事などの予定をお知らせします。

2023年3月末頃から、全面休園します（2023年9月までを予定）。現在も、園内では建物の解体・改修工事を実施しています。牛舎の建て替えや展示温室の解体・跡地活用等のリニューアル整備工事も含め、園内の工事は今後、2024年3月頃まで続く予定です。

市民菜園、チャレンジファーマーカレッジ、農業ボランティア育成講座は、令和5年度の募集はありません。令和6年度から再開予定です。なお、リニューアル整備について詳細は下記ページをご覧ください。

名古屋市農業センターリニューアル整備・管理運営事業

<https://www.city.nagoya.jp/shisei/category/53-3-21-0-0-0-0-0-0-0.html>

# 援農作業予定 (12～2月)

## てんぱく支部



ニンジンの収穫

12月  
ミカンの収穫、梅剪定  
小松菜の整理

1月  
ニンジンの収穫

2月  
ニンジンの収穫

## みどり支部

支部会員へのお願い

援農作業風景の写真を募集しています。  
農家さんにご迷惑をおかけしないよう事前に  
了解を頂いた上、休憩時間の前後の時間に  
撮って下さい。支部長と相談の上。

12月  
ぶどう、柿、ミカンの整枝剪定

1月  
ぶどう粗皮削り・敷草引き  
ミカン・ポンカン収穫

2月  
草取り等

# 援農作業予定 (12~2月)

## もりやま支部



ぶどう皮むき

12月  
野菜収穫、畑整理・片付け、草取り  
ぶどう剪定・蔓切り、梅剪定

1月  
野菜収穫、畑整理・片付け、草取り  
ぶどう皮むき、梅・柿剪定

2月  
野菜収穫、畑整理・片付け、草取り  
ぶどう皮むき、ブルーベリー剪定

## ブロッコリー収穫

## 港・中川支部



ブロッコリー収穫

12月  
里芋の収穫・小芋外し・袋詰め  
レタスの袋詰め、春菊の出荷準備  
ミツバ出荷準備、春菊畑の草取り  
トマト箱作り

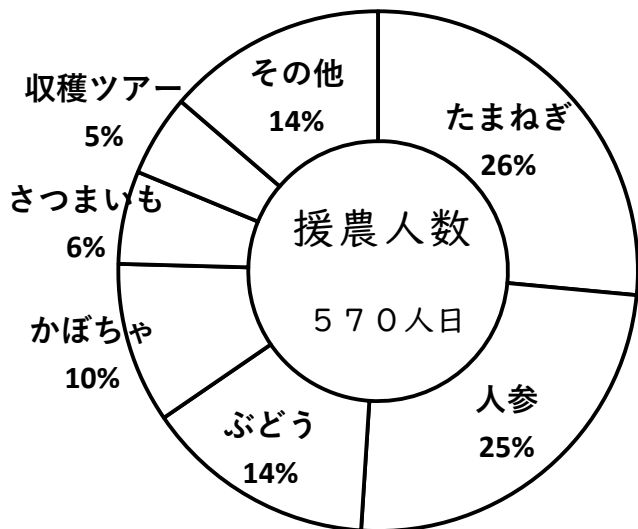
1月  
箱作り、トマトクリップの外し  
里芋の収穫、ブロッコリーの収穫と袋詰め  
ミツバ出荷準備、春菊畑の草取り

2月  
トマト箱作り、ジャガイモの植え付け  
とうもろこし・枝豆・ナスの播種  
里芋の土落とし、ミツバ出荷準備  
ブロッコリーの収穫と袋詰め



# 援農作業実績 (8～10月)

## てんぱく支部



1人日=1人1日3時間の援農作業

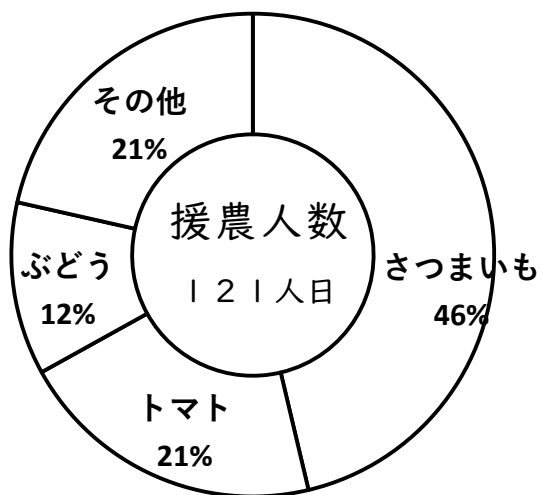
三か月間(8月～10月)の援農実績は、88人日。  
累計(2月～10月)は570人日。  
三か月間の援農先は、3農家。

援農作業は、人参間引き・土寄せ・朝市手伝いが主な作業。

この他、ネギ植え・切り、さつまいも収穫手伝いなど

昨年同期(8月～10月)の援農実績 89人日  
昨年の累計実績は、516人日

## みどり支部



1人日=1人1日2時間の援農作業

三か月間(8月～10月)の援農実績は、46人日。  
累計(2～10月)は121人日。  
三か月間の援農先農家は、2農家。

援農作業は、さつまいも畑のつる切り、つるおこし、野菜の袋詰めが主な作業。

この他、ハウスのカーテン外し、マルチ張りなど

昨年同期(8月～10月)の援農実績 36人日  
昨年の累計実績は284人日。

# 援農作業実績 (8～10月)

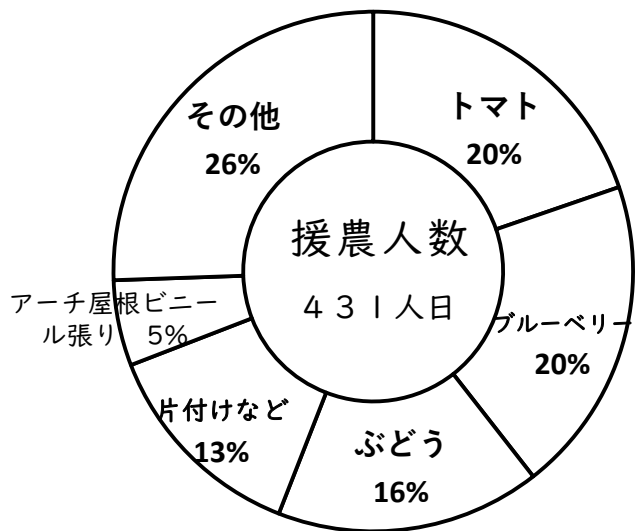
## もりやま支部

三か月間(8月～10月)の援農実績は、115日。  
 累計(2～10月)は431人日。  
 三か月間の援農先農家は、3農家。

援農作業は、ワイン用ぶどう収穫、ぶどう出荷作業、  
 伐採、蔓切り、ブルーベリー収穫、剪定、  
 ブロッコロー定植、土寄せ、施肥など

この他、キンカン収穫、キュウリ苗植え、バジル定植、  
 ジャガイモ植付、アボガド・みかん堆肥蒔きなど

昨年同期(8月～10月)の援農実績 129人日  
 昨年の累計実績は392人日



1人日=1人1日2時間の援農作業

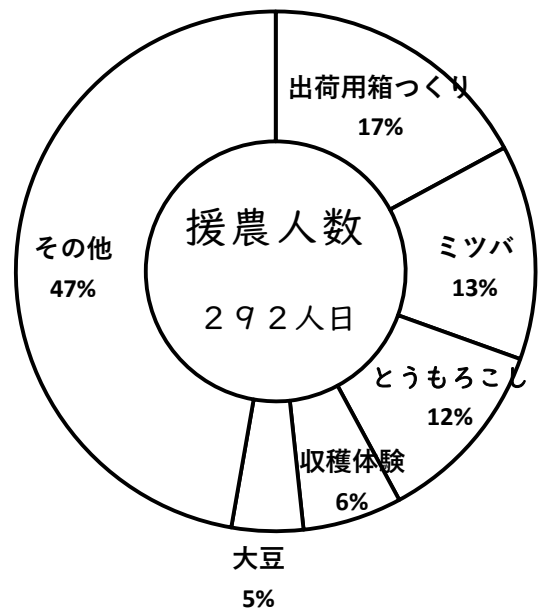
## 港・中川支部

三か月間(8月～10月)の援農実績は、70人日。  
 累計(2～10月)は292人日。  
 三か月間の援農先農家は、5農家。

援農作業は、ミツバ調整、箱作り、サツマイモ蔓切り・  
 芋掘り体験補助、ブロッコリー定植、春菊の間引きなど

この他、野菜播種(ブロッコリー、カリフラワー、キャベツ、  
 ハクサイトウモロコシ)、野菜収穫(カボチャ、トウガラシ)  
 等

昨年同期(8月～10月)の援農実績 108人日  
 昨年の累計実績は378人日



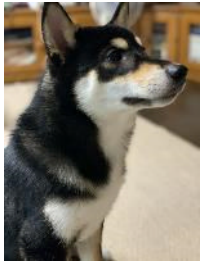
1人日=1人1日2又は3時間の援農作業

# 農家さん紹介

## 「体験農園サエもん村」訪問記

(港区新茶屋四丁目729番地)

村長のサエもん、です。



会いにきてね。



農場長の久野晃裕さん。

『サエもん村は、あなたの手で健康でおいしい野菜作りができるよう栽培の理論と技術を学ぶ場として、開村しました。

自分が手がけた野菜がどのように育ち、どんな味、どんな大きさになったか、収穫の時の喜びはまた、ひとしおです。この村で野菜づくりだけでなく、参加者との交流の中で新たな生活の知恵や生き方などが広がり、「農のある暮らし」が生活の一部となることを願ってやみません。

皆さんの参加を心からお待ちしています。』 体験農園サエもん村HPより

今回は港・中川支部がお世話になっている久野晃裕さんに伺いました。

「体験農園サエもん村」(以下、「サエもん村」という。)が取材場所です。

(取材は令和3年11月) 所在地の地名は新茶屋。

茶屋といえば中世からの休憩所で、注文に応じてお茶や和菓子を提供する店のイメージ、なぜ茶屋?と以前から思っていました。(※地名の由来を参照)

久野さんはこの地で代々続く農家の出で、会社勤めの傍ら農作業を手伝っていたとのこと。以前からサツマイモのふれあい農園(収穫体験)を行っており、名古屋市の都市農業課の紹介で農楽会とのお付き合いが始まりました。

これまでのふれあい農園に加えて、新たに開設されたサエもん村の手伝いにベテラン会員3名が参加することになりました。

サエもん村は2年前に開村。親戚のいここに頼まれて借りた畑(1.5反)の活用法の一つとして以前から温めていた構想だったとのこと。

月2回の体験コースで、参加は12組(令和4年8月現在)で15組が限度とのこと。

「サエもん」は犬の名前でこの村の村長です。

奥さんが助役で自分は農場長という位置づけだそうです。

ぜひサエもん村のHPを見てください。(体験農園サエもん村 検索)

開村によって、多くの人が集まり、農作業を通じて、交流が深まり、進化する。

そうして「農のある暮らし」がさらに広がっていく。

「人が自然に集まれる場」が必要だと感じるとのこと。

サエもん村でのお手伝いは前述のとおり経験豊富な会員3名のみですが、例えば、3名以外に久野さんや参加者の邪魔にならないように農作業の経験の少ない会員もお手伝いに参加し、色んな作業を経験することができないだろうか。そうすると会員がもっと楽しくお手伝いに参加する機会も増えるように思います。

これからの畑の利用形態として体験農園の比重・割合が更に増えると思う。

このような援農作業がもっともっと増えないかな、このような援農場所がみんなにあるといいなと思いつつ帰路につきました。

(地名の由来)

茶屋新田は新田開発を行った中島長意の屋号であった茶屋に由来する。

茶屋家の創立者は、徳川家康の側近として情報収集や諸家との調停にあたった中島四郎次郎清延。清延の三男、新四郎長吉(長意)が、慶長十九年(1614)尾張藩主義直に付けられ、名古屋に来たのが尾州茶屋家の始まりである。

戦国期、支配者層に物資を提供し、様々な特権を与えられる商人を初期豪商と呼ぶが、その代表が、中島茶屋家である。

江戸茶屋、京茶屋と並び玉来印船貿易を営み繁栄し、尾張でも政商の名が高く、初代長意が茶屋新田、二代長以が茶屋後新田を開発経営した。

## はじめよう! 家庭菜園(\*1)

摘心とは、野菜の生長を促すために行う手入れ作業です。

「ピンチ」や「芯止め」とも呼ばれ、「芯」と呼ばれる芽の先端を摘み取ります。

野菜の多くは頂芽(茎の先端にある芽)の方が側芽(茎の側面についている芽)よりも優先的に育つ性質を持っています。

そのため、放っておくと優先的な茎だけが伸びてしまい茎の生長に養分を使ってしまうため、先端にしか花を咲かせることができません。

苗のうちに摘心を繰り返すことで草丈がコンパクトになり、収穫量アップが期待できます。

### 1. 摘心って何?

摘心とは、長く伸びた茎やツル・主枝・側枝が大きく伸びないように長さを調整する作業です。摘心することによって、栄養が実によくまわるようになるので、実つきが良くなります。

また、子ヅルや孫ヅルを大きく伸ばしたい場合も摘心をしましょう。

親ヅルを摘心することによって栄養が子ヅルや孫ヅルにまわり、大きく伸びていきます。

子ヅルを伸ばすための摘心はスイカ・メロン・カボチャなどで活用しましょう。

### 2. 摘心の時期って?

育てる野菜によって摘心に適した時期は異なりますが、主に生育が盛んな発育期に行います。



長く伸びた茎の先端にある芽を、手でひねって摘み取るか、ハサミでカットしていきましょう。

頂芽が伸びすぎたと感じた場合は、1節ほど切ってしまうと構いません。また、野菜によって複数回行う場合も、1回のみの場合もあります。

### 3. 摘心のメリットって?

葉の枚数が増える/実が増える/質の良い実が収穫できる

### 4. 摘心の方法

せっかく育てた野菜の茎を切り落としてしまうのは勇気がいると思いますが、摘心を怠るとむしろ悪影響を与えてしまいます。

欠かさず行うようにしましょう。

# あいちの伝統野菜

今月号はサトイモです。

サトイモはサトイモ科の植物。

根茎を食用とするために栽培されている栽培種を総称してタロイモと呼んでいるが、タロイモの中で最も重要な作物がコロカシア属のサトイモ類で、この中にサトイモとハスイモがある。

サトイモ類は、比較的低温条件に対する適応性が強く暖帯から温帯地方まで栽培地域が広がっている。

原産地はインドとする説、東南アジア節などある。

元来、暖温帯性の陰湿地の植物で中国南部を中心にヒマラヤ、東南アジアの山地林に自生したものでそれらのうちある亜種群が中国南部で栽培化され作物化されたものが、南太平洋、インド、東南アジア、中国、日本などに伝播したものとされている。

中国には紀元前に伝わり、西方のエジプトには1世紀頃伝わったとされる。

その後、ヨーロッパ、アフリカに伝わったが、元来水湿に恵まれた暖地で順調な生育をするものであり、欧米ではあまり普及していない。

日本への渡来時期、経路は明らかでないが、温泉地などで自生している弘法芋は縄文時代中期に半栽培の原始型のサトイモが渡来し各地に広がったものの残存物といわれる。イネの渡来より古いと言われている。



## あいちの伝統野菜

次号はネギを紹介します

### 八名丸さといも



形は子イモ、孫イモとも丸い。  
食味は肉質が柔らかく、粘りが強い。

写真：あいち在来種保存会提供

サトイモは古くから農耕儀礼や儀礼食に多く用いられている。

正月料理にサトイモを用いる習慣が全国に残り、8月15日にサトイモを月に供える習慣も関東以西に多く見られる。

畑作行事としてのイモの収穫儀礼であったといわれる。

正月やハレの日の儀礼食や収穫儀礼として広く用いられることは、サトイモが古来コメと並んで重要な作物であったためばかりではなく、わが国に稲作文化よりもむしろ古くから、雑穀とイモ文化ともいえるべき針葉樹林文化が伝わっていた、その名残とも考えられる。

古くから主要な作物とされ、わが国の食生活上欠かせない野菜である。

頂芽の葉が地上に出て開くとその基部の茎は肥大して親芋になり、親芋の側芽が地上部に葉を開かず肥大すると子芋になる。

里芋は、種子ではなく種芋で増えます。

サトイモはどの部分を主に利用するかで親芋用品種、子芋用品種、親子兼用品種と葉柄用品種に大別できる。

里芋自体は茎が肥大したもので、株を中心に大きな親芋があり、そこから分球したものが子芋です。子芋からさらに分球したものを孫芋と呼びます。

実は、親芋と子芋と孫芋、どれを食用とするかによって、里芋の種類が分けられています。また芋以外に葉を食べる品種もあります。

八名丸さといもが愛知の伝統野菜に選ばれています。

### 参考文献

日本のふるさと野菜（一般社団法人日本種苗協会発行）

日本の野菜文化史事典（青葉高著 八坂書房2013）

愛知県園芸発達史（愛知県園芸発達史編さん会）

あいち在来種保存会・野菜ソムリエの「あいちの伝統野菜」（ブログ）

愛知県HP愛・地産・アラカルト 農業水産局農政部園芸農産課

## 編集後記

新型コロナウイルス感染症第8波の感染動向は感染拡大がゆっくりしていて動向がよくわからない状況ですが、新型コロナウイルス感染症対策をしつつ援農をお願いします。これから寒い日が続きますので、風邪、インフルエンザ、コロナにかからぬよう対策してお過ごしください。農業センターは、2023年4月からリニューアル整備されるため、農楽会の会議の開催場所等が一時的に変更となります。ご不便をおかけしますがよろしくお願いします。

発行 **なごやか農楽会事務局**（水野・佐藤） 令和4年12月1日発行

なごやか農楽会は、名古屋市内の農家のお手伝いを主な活動とする農業ボランティアグループ。

会員は、全て農業ボランティア育成講座修了生です。